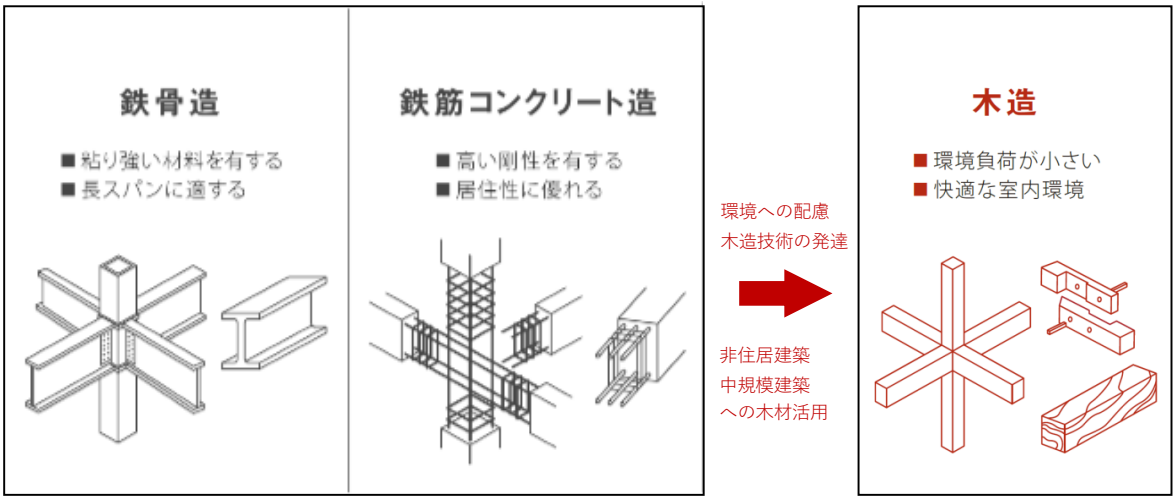
サスティナブル建築へ向けた木材活用 その１



○ 地球環境への配慮の仕方が変わる

これまで中大規模の建築物に使用されてきた建築材料は、主にコンクリートと鉄骨である。いずれも材料強度が高く、加工性に優れた材料であり、蓄積されてきた技術も多い。一方、建設中に排出されるＣＯ2や使用するエネルギーが課題となっている。

そんな中、CO2固定効果のある木質材料を再評価する動きや、戦後植林した大量の人工林が活用期を迎える中、国産木材を有効活用しようとする気運の高まりを背景として、近年、中大規模木質構造建築物の建設に関心が集まっている。

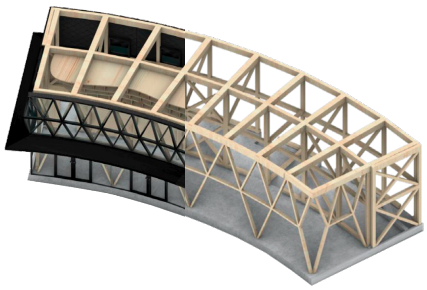
ここでは、上記のような社会動向を受け、木材を構造材として積極的に利用した事例を紹介する。

石田沢防災センター

竣工年	2016年
所在地	宮城県松島町
用途	防災まちづくり拠点施設
敷地面積	20797.67㎡
延床面積	957.60㎡
階数	地上1階／地下なし
構造	木造

・松島町石田沢の道の駅プロジェクト。災害時には防災センターとなる。
・約１２ｍのロングスパンを２ｍピッチの方杖ラーメン構造で実現している。
・使用する木部材を幅120mm以下の一般流通材のみとすることで、木現し空間を経済的に実現している。

GLOBAL RING CAFÉ

竣工年	2019年
所在地	東京都豊島区
用途	飲食店舗
敷地面積	3123．19㎡
延床面積	99.6㎡
階数	地上1階／地下なし
構造	木造

・都心部の駅前空間で、親しみを与える木質空間を実現した事例。（燃え代設計）
・湾曲集成材によるダイヤグリッド架構を用いて、特徴的なファサードと構造躯体を融合している。